

平成24年7月16日梅雨前線に伴う出水と 玉川ダムの洪水調節効果について

～玉川ダムの洪水調節により下流河川の水位低減効果がありました～

雄物川水系玉川の玉川ダム(仙北市玉川)上流域では、梅雨前線の活発な活動により、降り始めの7月15日1時から7月17日9時までの累加雨量は169.6mm(ダム流域平均雨量)を観測しました。特に16日4時から7時にかけての3時間雨量は53.7mmとなりました。

この出水で玉川ダムでは、16日8時20分に最大771立方メートルの流入となり、洪水調節を行うことで約976万m³の水をダムに貯め込み、下流河川の水位低下に努めました。

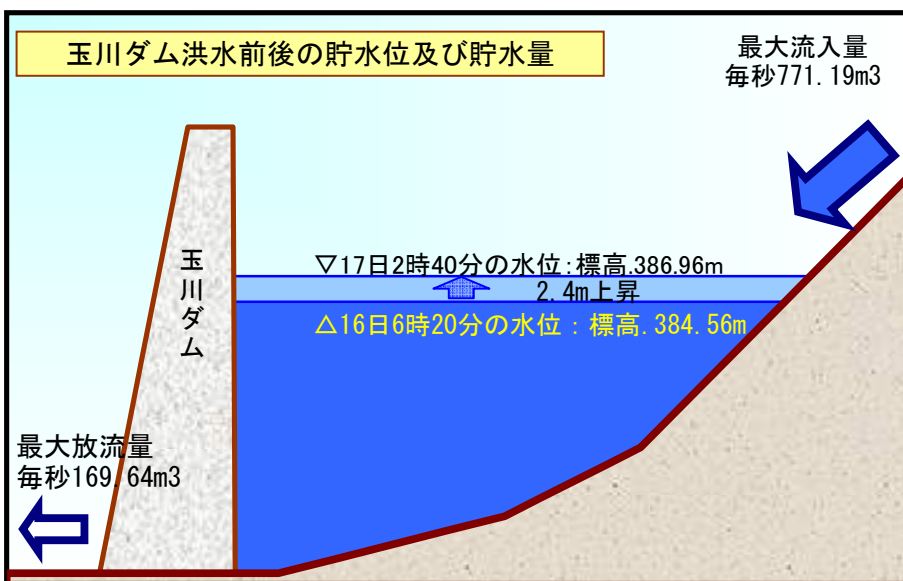
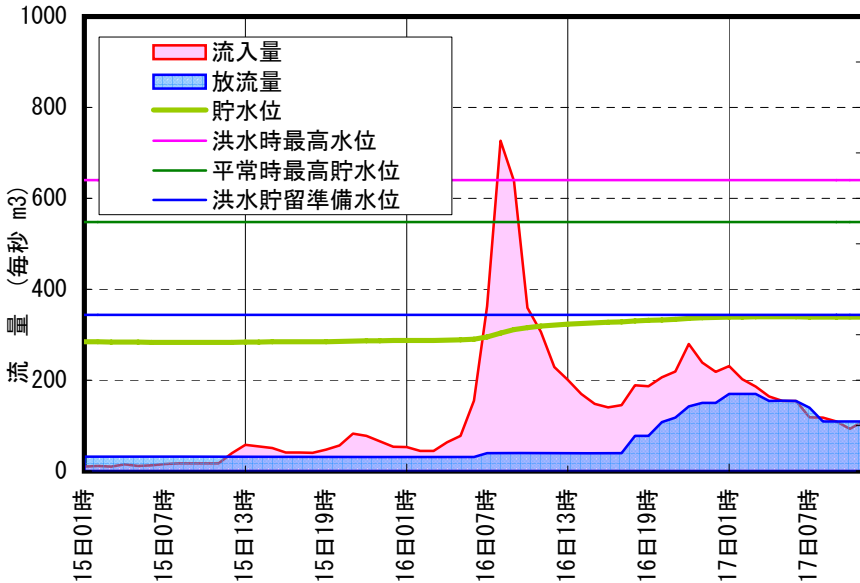
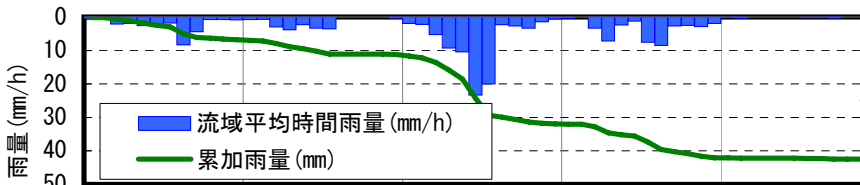
※洪水調節とは、流入量が洪水量に達した時から流入量と放流量が等しくなるまでの期間に、流入量の一部を下流河川に放流し、残りをダムに貯めて、洪水調節を行わない場合よりも下流河川の流量を減らし、氾濫の防止に寄与することです。

1. 洪水調節について

- ・最大流入量 771立方メートル毎秒
- ・最大流入時の放流量 40立方メートル毎秒
- ・調節量 731立方メートル毎秒
- ・貯水位 7月16日6時20分 384.56m (洪水調節開始時)
↓
7月17日2時40分 386.96m (洪水調節終了時)

【平成24年7月16日洪水】 梅雨前線 による出水における玉川ダムの効果

今回の洪水において、玉川ダムでは最大流入量 毎秒771.19m³(16日8時20分)を記録しました。
 16日6時20分に洪水量(ダムへの流入量が毎秒200m³)に達し、洪水調節を開始。約976万m³をダムに貯め込み、下流被害の軽減に努めました。



約976万m³の水をダムに貯めました

これは、
 東京ドーム 約7.9個分 (124万m³)
 セリオン 約14個分 (秋田ポートタワー) (約68万m³)
 25mプール 約19,512杯分 (約500m³)
 に相当します